課題番号	Q19K-03
課題名（和文）	体罰および虐待的指導の効果に関する実証研究の総括と展望
課題名（英文）	Summary and Perspectives of Empirical Studies on the Effects of Corporal Punishment and Abusive Pedagogy
研究代表者	所属（学部、学科・学系・系列、職位） 理工学部　共通教育群教職課程　准教授 氏名　山本　宏樹
共同研究者	所属（学部、学科・学系・系列、職位） 氏名
	所属（学部、学科・学系・系列、職位） 氏名
	所属（学部、学科・学系・系列、職位） 氏名
	所属（学部、学科・学系・系列、職位） 氏名

研究成果の概要（和文）

第一に、学校清掃中の会話を禁じ、定められた方式に則って清掃を実施する「無言清掃」の現状、教育効果とその有害性、現場で用いられる要因等について明らかにした。

第二に、学校内外の暴力の現状と対策について検討し、学校が暴力の温床になりえるのと同時に、学校が機能不全に陥った場合には、家庭内における虐待等の暴力が増加する可能性について示唆した。

第三に、2010 年代以降、生徒指導をめぐる裁判外の紛争解決手続が進展している点を踏まえ、校則違反に対する生徒指導にあたって考慮すべき点について示した。

上記研究成果は著名 3 誌の寄稿依頼に応える形で発表された。

研究成果の概要（英文）

First, this study clarified the current situation of "silent cleaning" in schools and its educational effects and harms. Second, the author examined the current state of violence in and out of schools and how to deal with it. Third, in light of the developments in “alternative dispute resolution” since 2010, the author examined how student guidance against school rule violations should be conducted.

The results of the above research were published at the end of the fiscal year in response to requests for contributions from three prominent journals.

1. 研究開始当初の背景

近年、教師やその他の指導者による体罰や虐待的指導に関する事件が度々日本のマスメディアを賑わせている。

しかし、日本国内の体罰等をめぐる論争においては、科学的根拠にもとづいた議論は低調であり、自身の経験にもとづく容認論や、権利論にもとづく反対論が語られがちである。

とりわけ体罰をともなわない虐待的指導については、そもそも実証的研究がどの程度存在するかが不明確である。体罰や虐待的指導をめぐる実証的研究は未だ発展途上にあり、学術的観点からの総括と今後の展望が待たれている状況である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の問題を踏まえ、体罰および虐待的指導の効果に関する既存の実証研究について総括を行い、展望論文を執筆するものである。

本研究では「体罰や虐待的指導は有害か」、仮に基本的に有害だとして「体罰や虐待的指導が好ましい効果を発揮する条件は存在するか」、さらに例外的に好ましい効果が発揮される場合があるとして「体罰や虐待的指導の条件付き使用は現実的に可能か」について検討する。本研究では、さらに「体罰や虐待的指導の代替案」についても実証的観点から検討する。

3. 研究の方法

本研究では、2019 年 4 月から 2020 年 3 月までの 12 ヶ月間に、①文献収集、②レビュー、③成果発表を行った。

4. 研究成果

研究成果については、学会査読誌への投稿も検討したが、専門誌からの寄稿依頼が重なり、社会的関心も高い分野であるため、主に著名 3 誌に寄稿する形で発表がなされた。

まず学校清掃中の会話を禁じ、定められた方式に則って清掃を実施する「無言清掃」の現状、教育効果とその有害性、現場で用いられる要因等について、月刊誌『教育』12 月号に寄稿を行った。拙稿の内容はその後朝日新聞に取り上げられた（朝日新聞「ひたすら『無言清掃』小中学校で広がる　どんな意味が？」2020 年 2 月 16 日付）。また拙稿をリライトした内容について、WEB ジャーナル『シノドス』に寄稿予定となっている。

2020 年 2 月には月刊誌『教育』の発行元である教育科学研究会の主催により、東京家政学院大学において研究成果発表会を開催し、一橋大学名誉教授久冨善之氏ほかからコメントを頂戴した。

同年 3 月には、朝日新聞社の『月刊ジャーナリズム』2020 年 3 月号に、学校内外の暴力の現状と対策について寄稿を行った。拙稿は学校が機能不全に陥ることで、家庭内における虐待等の暴力が増加する可能性について示唆したものであり、新型コロナウイルス感染症をめぐる小中高校等の一斉臨時休校によって虐待等が増加することを予言した内容として一部で話題になった。

同月、教育専門誌『季刊教育法』2020 年 3 月号にも寄稿を行った。これは 2010 年代以降、生徒指導をめぐる裁判外の紛争解決手続が進展している点を踏まえ、校則違反に対する生徒指導にあたって考慮すべき点について示したものである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、共同研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）

① 山本宏樹「無言清掃はどこからきたのか」『教育』2019 年 12 月号、教育科学研究会編、かもがわ出版、82-91 頁。

② 山本宏樹「暴力で維持される公教育：学校外の支援と、非暴力の実践を」『月刊ジャーナリズム』2020 年 3 月号、朝日新聞社、58-65 頁。

③ 山本宏樹「校則指導の新たな争点：生徒指導の法化と修復的実践」『季刊教育法』2020 年 3 月号、エイデル研究所、22-29 頁。

〔学会発表〕（計　0　件）

〔図書〕（計　0　件）